

詩と画

# 話<sup>わ</sup>つ<sup>っ</sup>花<sup>か</sup> 二

鳥井まみ

## 歌う渡り鳥

「ツピッ ツピッ ツピッ  
 歌っているのは  
 オスのツバメ  
 遅れてやってきた  
 メスのツバメ  
 「ツピッ ツピッ  
 なぜか「ビビビ」を  
 省いて鳴く  
 それと二股のシッポ  
 細長くスマートなのがオスですが  
 太めでメスっぽいのが

増えてます  
 ツバメが「スイスイ」と  
 舞い上がる姿は  
 半世紀前に日本にやってきた  
 ビートルズに似ているようで  
 解散して四三年  
 ♪ イエスタデイを作った  
 ポールはバラード風  
 ジョーはロックンロール風  
 デビュールアルバムは  
 「プリーズ・ミー」  
 いらっしやい  
 毎年でも  
 やって来て！



# アワダチ草

異国の地で  
「さあ立ち上げ」  
その疾走感は  
「盛大！」  
たちまち空き地に広がって  
痩せ地だらうが  
どこだらうが  
勢力はグングン  
背丈もグングン  
セイタカアワダチ草  
あおられたのか  
あのおられたのか  
あの目立ちたがりやで  
派手好みのケイトーが  
「いつかアワと消えるやろ」  
異郷で生き延びるのも  
グローバルだと  
負け惜しみ

「死ぬほど愛してる」と  
情熱だけは盛んだけど  
どうも鶏頭には  
繁殖力がいまひとつ  
デカすぎの  
頭のせいかしら



# キレイになれたら

筋肉を使わないと  
ゼイ肉がつきやすいそうで  
そこで  
水泳教室へ向いました  
「私でも出来ますか？」  
先生は足首も細く美脚だし  
メリハリ美人  
まっすぐで  
ストリームライン  
「お尻の穴はキューと締める感じに」  
「ホラ水面にお尻が突き出てる！」  
「足は開かない！」  
「イメーヂがちがう」  
トビウオにならないように  
全身の指先から爪先まで  
一直線になるように  
ときにはチカラを抜いて

リラックス  
下半身からしつかり  
練習したら  
美しさ効果的ですと



## ちよつと寄り道

海をながめて  
「サンマが来んな」と漁師  
「店に並べるサンマがない」  
「そのうち」とやきもき  
していたら  
「マグロの群れじゃ！」  
「大漁旗あげや！」  
時速百六十キロで  
泳ぎ回るうち北海道の沿岸に  
やってくる  
サンマの方は  
海面温度に敏感で  
一度でも高かったら別ルートへ回遊  
マグロは  
「いつもならサンマが  
この辺りにいるのだが：：  
もたもたしているたら」

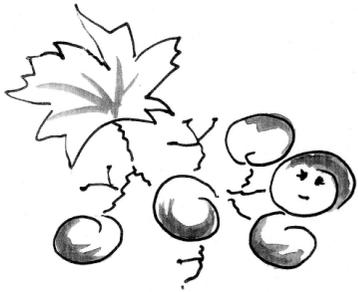
自身が捕獲されて  
海の仲間でも最高の速力を持ち主も  
逃げられず  
遠洋漁業によるハエナワ漁では  
縄に針を付けエサのサンマで  
マグロを獲る  
「とんだ仕返しヤッター  
いつもエサにして」



# 美白のよしあし

あつちや向いても  
美白さん  
こつちや向いても  
美白さん  
お化粧したい女性なら  
大好きなことば  
「私、このごろ面の皮がぶ厚く  
なつたかしら？」  
ぬつて又ぬつて  
まだぬり足りないと又ぬつて  
お化粧品が空気が早いこと  
やになつちやう  
「いつかはバレル嘘の肌だわ」  
ある日思いきつて  
スッピンにしてみたら  
「何かあつたの？」  
「別人みたい」

じろじろ見られて言われた  
「もう虫がつくつて  
年でもないし  
ブドウのように袋かぶらなくても  
いいじゃない」



## 牛の七変化

さわがれたけど  
落着いたみたい  
「牛と豚が半分ずつでも  
和牛メンチカツって  
ホテルで出してたって」  
このメニュー  
確かに豚肉って書いてあるけど  
本当はヒネ鶏だったり羊だったり  
なんでも半分くらい混ぜて  
あるのか無いのかな？  
「ヒネ鶏って？」  
「若鶏でないってこと」  
「ハイイ お待ちどおさま」  
「うまそう」  
「ビールにも合いそうだ！」  
「やだわ。味より値段でしょ」  
少々ちがってたって

腹に入れていっしょ  
牛肉も注入され圧縮されて  
端麗にならねば  
私と同じ悩み  
劣化して味が落ちちゃうから

